

教会月報

No.533 (2023年5月28日)

【2023年6月号】

日本キリスト教団埼玉和光教会
〒351-0114 和光市本町 15-50

連れ帰る神

岩河敏宏

聖書：創世記 28 章 15 節～16 節

15 見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」16 ヤコブは眠りから覚めて言った。「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。」

創世記に記されたヤコブの生涯は、現実の私たちの歩みに大きな示唆を与えると感じます（以下の章・節は全て創世記）。彼は、イサクとリベカの間生まれた双子の弟で、兄はエサウです。ヤコブは、私たちが世俗的に考え、想像する「成功者」ではありません。しかし、このヤコブの歩みの中に神の祝福があり、私たちが見つめ、求めるべき神の祝福が記されている、と感じます。ヤコブに関する記述は、25 章 19 節から始まります。本来、長子の権利（祝福）は兄エサウにあります。彼はその権利を軽視し空腹を覚えた時、ヤコブが料理した煮物と交換条件で、その権利を譲ります。さらに、老齢で視力が著しく低下した父イサクを騙し、その権利を確定的なものにします。ヤコブは穏やかな人物とされていましたが、その内面には人を

欺いてまで祝福を奪い取ろうとする強引さと野心がありました。

父イサクは、ヤコブを呼び寄せ、全能の神の名で彼を祝福するとともに、兄エサウの恨みと殺意から引き離して彼の命を守るために、自分のもとから妻リベカの兄であるラバンの所へと送り出します（28 章 1 節～5 節）。これまでは親の加護のもとにあったヤコブが、兄エサウの追跡を逃れるためにラバンがいるハランという所へ向かいます。彼は初めて親元を離れ、独立した人生の歩みを強いられます。冒頭の聖句は、彼が「ベエル・シェバを立ててハランへ向かった」（28 章 10 節）時、神がヤコブに語りかけた言葉です。「ベエル・シェバ」は、アブラハムやイサクが住み、そこで主の御名によって祈った場所（22 章 19 節、26 章 23 節）。井戸が掘られ、命の水の供給される所。神の臨在と祝福の場所でした。

その場所を独り旅立ち、一步を踏み出さなければならぬ、その時の出来事です。これからの日々は厳しく、孤独な歩みとなります。私たちが出来れば避けたい、と考える現実の中に「共にいる、守る、決して見捨てない」という神の約束がある、と聖書は語るのです。それだけでなく、必ず祝福の場所に「連れ帰る」と約束して下さる神に信頼して、埼玉和光教会の 77 年目の歩みを踏み出したい。